

令和6年10月15日

職員各位

八代市長 中村 博生

令和7年度予算編成に向けて

県内では、TSMCの進出により半導体関連や物流関連企業の集積が進む中、県南地域の発展振興のため、本市内陸部に約25ヘクタールの県営工業団地の整備が予定されている。また、本市においては、国際クルーズ船の寄港増加によるインバウンドは拡大してきており、令和6年においては2億円以上の経済効果が見込まれている。加えて、アジア最大の物流不動産企業との連携を契機として民間投資の誘発や物流の販路拡大に向けた取組を進めるとともに、TSMCの本社が所在する台湾新竹市との友好交流協定の締結により、両市の経済発展と貿易振興につながることを期待される。

このような情勢の変化を本市発展への好機と捉え、これらの効果を最大限に得るための方策を検討していく必要がある。

そのような状況の中で、本市としては、令和2年7月豪雨からの坂本町の創造的復興を着実に進めるとともに、第2次八代市総合計画の総仕上げとして、計画に掲げる「しあわせあふれるひと・もの交流拠点都市 やつしろ」の実現に向けた取組を確実に推進し、さらには、八代の未来を切り拓くための施策として、新八代駅周辺の開発や県と一体となって取組む工業団地整備など、県南の雄都として相応しいまちづくりに積極的に取り組んでいかなければならない。

限られた財源の中で、これらを実現していくために、職員各位におかれては、長期的な視点にたち、より効率的かつ効果的な施策・事務事業のあり方を追求し、全職員が一丸となって知恵を出し合い、真に市民生活の向上に資する予算編成に取り組まれない。